

I. 沖縄県の乳幼児健診の精神発達遅滞児の スクリーニングと事後指導の諸問題の検討

分担研究者 日 暮 眞
研究協力者 落 合 靖 男

要約：乳幼児健診の事後指導としては、保健所が適し、児童相談所及び各施設と有機的連携をとり
合うことが大切である。

見出し語：乳幼児健診、保健所、児童相談所、小児発達センター、療育センター

イ) はじめに 沖縄県では乳幼児健診での精神
発達遅滞児は各保健所内の発達クリニック、及
び総合療育外来にてフォロー、指導しているこ
とを報告した。今年度は精神発達スクリーニ
ングの方法、及び事後指導として各市町村の要望
を検討した。

ロ) 方法、対象、沖縄県の市町村(23カ所)
にアンケート用紙を用いて調べた。

回収率は100%。

ハ) 結 果

ア) 乳児健診(3ヶ月～6ヶ月)、1歳6ヶ
月健診、3歳児健診の精神発達遅滞児のスク
リーニングをどのような方法でおこなっているか。

1. 問診(乳児、1歳半、3歳児健診表)で
要注意者を判定している。 23カ所

2. 1歳6ヵ月健診に心理判定員が参加し、
精神発達遅滞児のスクリーニングをおこな
っている。 2カ所

3. 他の方法

例えばつま木、指示し、○×のエンピツ
書き等を実際に乳幼児にやらせてみる。

3カ所

(重複している)

イ) 精神発達遅滞児の要注意者の判定基準の
目安をどこにしているか。

各市町村とも独自に考えているが、乳児健診

・沖縄小児発達センター

(Okinawa developmental center in child)

では主に頸定、座位の有無、手足の動きなど運動発達を基準にし、1歳6カ月健診では有意語の有無、言語理解、指示し、歩行開始、人まねの項目を重要視し、3歳児健診ではケンケン、友達と遊ぶ、言語等の理解、色別、大小、高低の理解を要注意者の目安としている。

c) 精神発達遅滞児の要注意者の二次スクリーニングをどこで行い、その後の指導をどこで実施しているか。

各市町村とも保健所内の発達クリニック、及び総合療育外来でフォロー、指導を受けているのが大部分である。沖縄市は市独自で発達相談を設け、那覇市は療育センターを利用している。要指導児は障害児保育への入所や、母子通園施設にて指導を受けている。

d) 地域において指導、訓練が必要な児童に対して、どのような施設があれば理想と考えるか

地元で心身障害児を指導、訓練できる施設（療育センター的なもの）を希望している市町村が大部分である。

e) 地元の保健所内に発達クリニックがあり、医師、保健婦、心理判定員があたっているが、他の職種で望むものは

言語訓練士の参加を希望 10カ所

保母の参加を希望 4カ所

福祉ワーカーの参加を希望 2カ所

ニ) 考 察

沖縄県では精神発達遅滞の事後指導として各保健所内の発達クリニック、総合療育外来をほぼすべての市町村が利用しているが、精神発達遅滞児のスクリーニングのある程度のガイドラインを望む声と事後指導としてできれば地元で

の療育センターの設立、それまでは今の保健所内の療育スタッフの充実を要望している。

Ⅱ. 乳幼児健診の精神発達遅滞児の事後指導における児童相談所との連携に関する調査

イ) はじめに、乳幼児健診の精神発達遅滞児は各保健所にて児童相談所の心理判定員が行っているが現在の状況と要望について検討した。

ロ) 方法、対象、2児童相談所の6人の心理判定員にアンケート方式で調べた。

ハ) 結 果

a) 各心理判定員が月にどのくらいの乳児の心理判定、指導等にあっているか

各心理判定員とも平均月に2回保健所に出向いて指導したり、児童相談所内で判定を実施している。1人の判定員が相談する件数は月に3人～8人程度である。

b) 1歳6カ月、3歳児検診の精神発達遅滞児の事後指導としてどのような係わり方が望ましいか、現在の保健所での判定、指導で良いと思う。又、保育所入所をすすめた児には経過を追って指導すべきである。障害児保育に入所した児には定期的に巡回相談すべきである。但しマンパワーの不足で現在は充分であるとは言いがたい。

c) 精神発達遅滞児の事後指導にあたり、要望、意見等について知りたい。医師、保健婦、心理判定員の互いの連絡情報交換が必要である。仕事の役割分担について決めておく必要がある（例えば心理判定員が診断までふみ込んでしまうおそれがある）

d) 精神発達遅滞児の多くは1歳6カ月検診で発見されるが、その後の指導として障害児保

育の入所（現在障害児保育の入所年齢は3歳）
をすすめた方が良いか……すなわち障害児保育
の入所年齢を引き下げるべきかどうか現在のま
までよいのではないかと、……1歳半頃は両親が
子供を指導するのが良い。但し障害の程度の重
い児童は専門機関（母子通所施設等）で指導す
るのが良い。

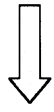
e) 今の医療との連帯において、医療知識な
どの研修、その他必要と考えるか。専門的医療
の研修、勉強会が必要である。

ニ) 考 察

乳健の事後指導としての心理判定員のかかわ
り方は今のままの保健所を中心として実施して
いくのが最も良い。但し内容的には充実した指
導とは現在言いにくい。やはり人材確保が必要
である。他機関との連帯を密にするとともに他
領域の勉強を望んでいる。

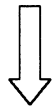
文献

- 1) 落合靖男、他：ハンディキャップ児童へ
の地域医療のあり方 小児科診療、
45：117-122. 1982
- 2) 落合靖男、他：沖縄県の心身障害児の早
期発見、早期療育システム
47：99-104. 1984
- 3) 落合靖男、他：乳幼児健診の要治療者や
要観察者の一貫した指導法の新しい試み
9：48-50. 1982



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:乳幼児健診の事後指導としては、保健所が適し、児童相談所及び各施設と有機的連携をとり合うことが大切である。